

ハーゲンダッツ ジャパン株式会社



本社：東京都目黒区上目黒2-1-1
URL：www.haagen-dazs.co.jp

VDIの環境改善を契機にHPE SimpliVityを導入 インフラの課題をトータルに解消すると同時に 運用管理の効率化やBCP強化も実現

[BEFORE]

- ◆VDI用に導入したNAS製品の安定性が低くトラブルに悩まされていた
- ◆バックアップに長い時間を要しており、災害対策面でも改善の余地があった

[AFTER]

- ◆HPE SimpliVityを新たに導入しシステムの信頼性・耐障害性を大幅に改善
- ◆30分毎にバックアップを取得することが可能に。業務復旧作業の自動化も実現

VDIの安定性向上が ビジネス上の課題に

1961年にアメリカ・ニューヨークで誕生して以来、世界50カ国以上で愛されているハーゲンダッツ。日本の市場で、多彩なアイスクリームの製造・販売を行っているのがハーゲンダッツジャパンだ。厳選された材料とこだわりの製法で作られる同社のアイスクリームは、日本市場においても圧倒的な支持を獲得している

加えて、先進ITの活用を積極的に行っているのも、同社の大きな特長だ。その一環として、2013年にVDIの全社導入を実施。会議室や出張先の拠点など、いつでも・どこでも仕事ができる環境を実現した。これにより、今回のコロナ禍においても、業務にそれほど大きな影響は生じなかったという。

ただし、VDIの運用を続ける中では、様々な課題にも直面した。中でも大きかったのがパフォーマンス不足だ。プロモーション用の動画データがスムーズに再生できないなどの事態が生じたため、同社では2018年にVDI基盤の刷新を断行。とはいえ、これですべての問題がクリアできたわけではなかったという。同社 情報システム部 マネージャー 竹下 新一氏は「ユーザープロファイル領域やフォルダリダイレクト領域を別のNAS製品に移し替えたのですが、この製品の安定性が低かった上に、いくつか解決すべき課題もあっ

たのです」と明かす。

いくらパフォーマンス不足を解消できても、こうした状況のままでは不安が残る。そこで、新たに白羽の矢が立てられたのが、ネットワールドが提供する日本ヒューレット・



ハーゲンダッツ ジャパン株式会社
情報システム部
マネージャー
竹下 新一氏

パッカード社製ハイパーコンパージド・インフラストラクチャ（以下HCD）製品「HPE SimpliVity 380 Gen10」（以下、SimpliVity）であった。

様々な課題を一気に 解消すべくHPE SimpliVityを 新たに採用

今回、SimpliVityが着目されたのは、ITインフラが抱える様々な課題をトータルに解消できると考えられたからだ。竹下氏は「たとえばその一つが、ファイルサーバーです。旧ファイルサーバーは容量が限界に近付きつつあったことに加え、バックアップにも長い時間が掛かっていました。金曜の深夜零時から週次のフルバックアップを走らせるのですが、遅いときには翌週月曜の昼間まで終わらなかったほどです」と説明する。また同社では、万一の事態に備えてバックアップデータを遠隔地に転送しているが、それを復旧する場合にも長い時間が掛かることが懸念されていた。

「その点、SimpliVityには高速なバックアップ／

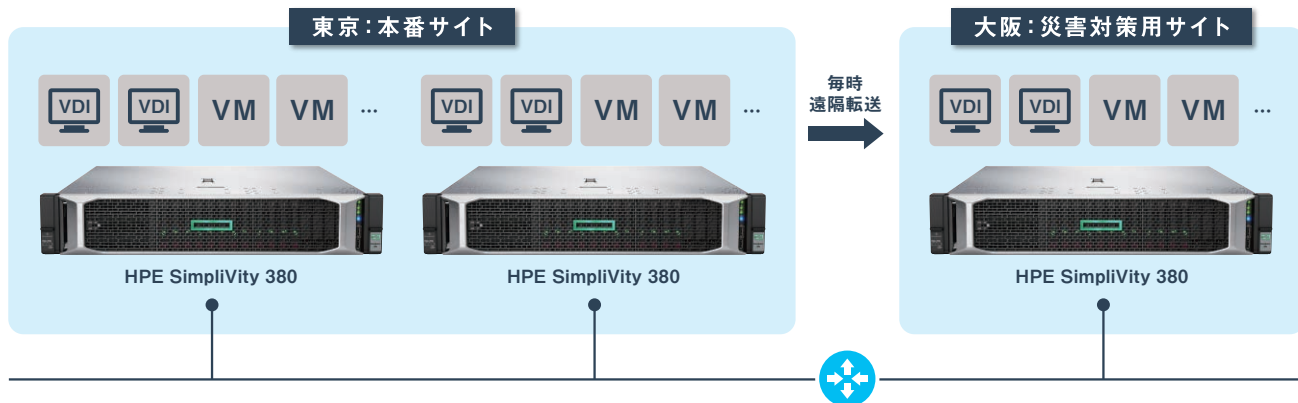
リストア機能が標準で備わっている上に、災害時の復旧作業を自動化するツール『HPE SimpliVity RapidDRソフトウェア』（以下、RapidDR）も用意されています。さらに、社内で稼働する他の業務サーバーもSimpliVityにまともてしまえば、インフラのシンプル化やコスト削減も図れます」と語るのは、今回のプロジェクトを担当したネットブレインズの川村 賢司氏。VDI基盤で既に馴染みのあるVMware vCenterに運用を統一できる点も、大きなメリットとなると考えたと続ける。

同社でもこの提案を高く評価。竹下氏は「私自身もSimpliVityの機能をチェックしてみましたが、非常に良い製品だと感じましたね。特に目を引いたのが、バックアップ機能を利用してCPUやメモリなどへの負荷が最小限に抑えられる点です。これなら、社員が日中に作業しているデータもしっかりと保護できます。さらに、インライン圧縮・重複排除機能も備わっていますので、限られたリソースを最大限に活用できます」と語る。実際に評価機を用いた事前検証も行ったが、そこでの手応えも十分だったとのこと。これにより、同社ではSimpliVityの導入を決断した。

インフラ環境のシンプル化を実現 圧縮・重複排除機能も威力を発揮

SimpliVityによる新仮想化基盤は、2020年4

HPE SimpliVity で仮想化基盤を強化



導入メリット

- ・インライン圧縮・重複排除機能により、バックアップデータの容量を約99.3%削減
- ・バックアップの頻度を、従来の1日に1回から30分に1回に強化
- ・災害時の業務復旧時間を、従来の約3時間から約30分に短縮

月より本番稼働を開始。システム構築面での工夫としては、東京に2ノード、大阪の災害対策用サイトに1ノードのSimpliVityを設置している点が挙げられる。「大阪側のSimpliVityは、万一の事態に備えるための待機系システムになります。こちらには予備のVDI環境も用意されていますので、災害などが発生した場合も問題なく業務を継続できます」と竹下氏は説明する。本番環境を2ノード構成とすることで、導入コストも抑えられたとのことだ。

現在は既存業務サーバー群の移行が着々と進められており、2020年秋頃に作業を完了する予定だ。「本社側に個別に残っていたサーバーはほとんど集約されますので、インフラ環境自体もこれまでより相当シンプルになりますね」と竹下氏は語る。

加えて、旧環境で課題となっていたVDIの安定性・信頼性についても、無事改善することに成功。「VDIは日々の業務で必ず利用するものですから、我々情報システム部門としてもできるだけ安定的なサービスを社員に提供したい。その点、SimpliVityを導入したことで、以前のようなトラブルに悩まされることもなくなりました」と竹下氏は語る。

さらに、容量不足の問題を抱えていたファイルサーバーについても、インライン圧縮・重複排除機能が威力を発揮。バックアップデータの容量を約99.3%削減するなど、非常に大きな成果が上がっている。「ストレージの容量自体も以前よ

り増えていますので、しばらく心配はありません。もし、今後リソースが不足した場合も、SimpliVityは容易に増設や拡張が行えますので安心です」と竹下氏は語る。

災害時にも迅速な業務復旧が可能に 他の業務システムでもSimpliVityを活用

今回導入されたSimpliVityは、データ保護やBCP強化の面でも大きな効果を発揮している。以前は日次でバックアップ/遠隔転送を行っていたため、最短でも前日のデータにしか戻せなかった。「これに対し現在では、ローカルバックアップを30分ごとに取得すると同時に、1時間に1回災害対策サイトへ遠隔転送しています。また、RapidDRを活用することで、災害時の業務復旧時間も従来の約3時間から約30分へと劇的に短縮することができました」と竹下氏は語る。

こうしたSimpliVityの長所を高く評価した同社では、その後サプライチェーン・マネジメント系のシステムへの採用も決定している。

「ハーゲンダッツ ジャパン様の課題解決に貢献できたことは、当社にとっても大きな成果。ネットワールドの手厚い支援にも大いに感謝しています。今後は他のお客様に対しても、積極的にSimpliVityをご提案していきたいですね」と川村氏は語る。

また竹下氏も、今後の抱負を「社員がストレスを感じることなく仕事ができる環境を提供するこ

とが、我々に課せられた最大のミッションです。今後も社員に喜ばれる環境を目指して、引き続き環境改善を進めていきたいと考えています」と述べた。

パートナー企業



Net Brains

株式会社ネットブレインズ
本社：東京都中央区明石町6-22
URL：https://www.netbrains.co.jp/



株式会社ネットブレインズ
IT事業部 ITサービス営業部
主任
川村 賢司 氏

お問い合わせ

株式会社ネットワールド

<https://www.networld.co.jp/>

✉ hpe-info@networld.co.jp

本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11-15
住友商事神保町ビル
TEL：03-5210-5020,5031,5095

関西支店 〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル 24F
TEL：06-7777-4174

中部支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23
ニッパビル 10F
TEL：052-588-7611

九州支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1
九勤筑紫通ビル 3F
TEL：092-461-7815